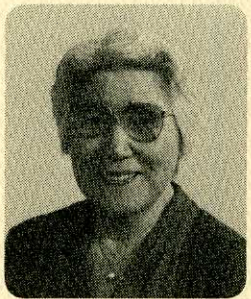


財団法人 成長科学協会

理事長 鎮目 和夫

昭和52年、当財団は主として、身体的な成長障害を助けるための研究や研究助成をする目的で設立され、これまで成長ホルモン剤を作るためのヒト下垂体の収集やその提供者の登録、人の成長に関する研究（原因不明の小人症など成長に関する未解決の問題が多々あります）、及び国際協力、更に成長障害者の診断・治療に関する指導、協力などを行って参りました。しかし、次代を担う日本の子供たちの身体の成長にもまして、心の発達が大切なことを考え、昨年当協会内に「子どもの心の発達研究委員会」を設置、活動を開始いたしました。

今後、皆さまと共に、子供の心身の発達にとりくんで行きたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。



子どもの心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子

子供の発達がおかしいのではないかとわれ始めてからかなりの年月が経過しています。体格は良いのに体力が劣る一から始まって子供の成人病など身体的症状、更には意欲がない、根気がない、思いやりがないなど。何か心の発達に歪みがあるのでは？を示唆する幾多の現象が、保育園、幼稚園、小学校、中学、高校にいたる各種教育現場、家庭の親たち、またこれらの問題がもち込まれる相談の専門家等々から報告されています。この様な事態をふまえ、果してこのままでよいのか、果たして心の発達は本当におかしいのか、歪みがあるとしたならばその原因は何か？を追求し、これらの心の発達をめぐる問題について、どうしたらよいか、その対策を考える必要に迫られているといえます。

「心の発達研究委員会」は、この問題にいろいろな角度からとりくんでいきますが、今回は視点を「父親」にあててみました。

父親とは一体何なのだろう？父親は子供に何かができるのかを、今の社会の父親の生態や問題をふまえて、今回は徹底的に追求して見たいと思います。

子供の心の発達についてやその歪みに関わる親の問題として、まず取り上げられたのは、母と子の関わり方であり、その間の愛着と自立の問題でありました。問題がおこるのは“母”が、その一端を担っているとされていたわけです。

しかし“父”は一体どうなのか、子供の心の発達への役割またその歪みへの作用はないのでしょうか。

昨年末に当研究会が行った「霊長類から学ぶ」集会では、人間があまりに特殊な生きものになってしまったために、「生きもの」として、動物と共通に持っているべき親と子の関わりの根源を歪めてきたのではないかという反省が出されました。そして、一方では、人間はやはり人間、霊長類に学ばねばならぬことと共に、人だからこそ霊長類にない親と

子の関わりの中で、人間性を発達させて行かなければならないのではということも指摘されました。

このことの一つの柱に、「人間の父親」の存在があるはずですが。

人も生きものであり、その意味では父と母はいわば雄性(おすせい)・雌性(めすせい)を持っていることは否めません。しかし、それがいかなる親として子供の発達に関わるかという点では、人であればこそ、男は雄性ではなく父性としての子への関わりを持つのです。

ところでこの「父性」は、ここ五十年のうち大きくその表現を変えてきました。明治・大正時代の父と、平成の父親の差、それは子供の心の発達にどんな作用をもたらしているのでしょうか。また世界の家族を比較して見た時、この「父親性」の文化差と時代差はどう考えられるのか。「父親」の問題を広い角度でながめ、また深くほり下げてみると、心の発達とは？また人間とは何か、も考えさせることにもなるであろうと考えております。

- 子どもの心の発達研究委員会
- 委員長 岡 宏子(大学セミナーハウス館長、聖心女子大名誉教授)
 - 委員 東 洋(白百合女子大児童文化学科長、東大名誉教授)
 - 〃 小林 登(国立小児病院長、東大名誉教授)
 - 〃 原ひろ子(お茶の水女子大女性文化研究センター教授)
 - 〃 大野澄子(聖心女子専門学校保育科長、日赤医療センター)
 - 〃 丹羽洋子(育児文化研究所長)
 - 〃 森 玲子(荒川区立西日暮里保育園長)
 - 顧問 鎮目和夫(成長科学協会理事長、東京女子医大名誉教授)

テーマ 「父親は子供に何ができるか」

司会 岡 宏子

13:30~13:35 開会 あいさつ 鎮目 和夫

13:35~15:00 プレゼンテーション
演者からの提言 中川 志郎
馬場 一雄
下村 健一
原 ひろ子
清水 将之

15:00~15:15 休 憩

15:15~16:30 ディスカッション
質疑応答



中川 志郎

財団法人動物園協会理事。元上野動物園長。
動物の親子、むれ(社会)のいろいろな生態から、人間の父親とは？を考える示唆を。

馬場 一雄

日本大学名誉教授。元日本大学板橋病院長。日本学術会議会員(小児科医)。
長年にわたる小児科医としての臨床経験から、接してきた父親と母親の変化を。

下村 健一

TBSアナウンサー。
昨年7月初めての男子の父親となる。育児休暇をとり、出産に立合う。変わったといわれる若い父親代表。

原 ひろ子

お茶の水女子大学女性文化研究センター教授。文化人類学者。
文化人類学者の立場から、文化と伝統を異にする国々の父親を比較、「父親とは？」を考える。

清水 将之

名古屋市立大学医学部助教授。精神科医。
思春期外来を通して、悩みをもち問題をもつ子供の父親は？
また、その治療課程の中で果たされる父親の役割などから、父親を学ぶ。

●次回について

「子供の発達は本当におかしいのか」
その発達に歪みを来している様に見える子供の生態は、時代の移り行きによる単なる変化なのか、憂慮すべき問題なのかを追求する。